



【言葉は不思議なもの】

新学期が始まって一か月が経過しました。子どもたちは、自分と先生や友達がいる教室に安心できる自分の居場所を見つけたようで、教室には笑顔とあたたかい言葉が溢れています。

言葉は不思議なものです。言葉一つで相手に安心感を与えることもあれば、不信感を抱くこともありあす。「そんなつもりはなかったのに」と相手の受け止め方によってさまざまな意味を生じさせてしまうもの、それが言葉です。

新学期に教師は子どもたちとの対話の中で、正確に、誠実に、正直に物事や感情を伝えようとして試行錯誤を繰り返しています。うまく子どもたちに伝わりにくいとき、「黙っておいたほうがいい」とか「時間をかけたほうがいい」と思うときがありますが、目を離さず、言葉は曖昧で、難しいという面を感じつつ、難しいからこそ深く、面白いものであるというチャレンジ精神で一つ一つ丁寧に語りかけています。そんなとき、保護者の何気ない一言が子どもたちにすっと届く姿を見て、とても参考になります。

しかし、保護者が子どもにかける「Aさん、すごいね」と、教師が子どもにかける「Aさん、すごいね」は決して同じにならないことに気がきます。そこには、その関係性に固有の「距離感」と「温度感」が存在するからです。距離感には、「遠近」があり、遠ければ本音は伝わらないし、近すぎれば遠慮がなくなる恐れがあります。温度感には、「温冷」があり、あたたかく包み込む言葉もあれば、冷たく突き放すような言葉もあります。「こんな言葉かけがいい」とか「Aという言い方はやめて、Bという言い方にしましょう」という単純な構図ではなく、子どもたちを「どう見ているのか」「どう捉えているのか」「どのように育ててほしいと思っているのか」が瞬間瞬間の言葉選びに大きく影響していることを感じる毎日です。

(校長 金島 一顯)

【教育支援について】

4/25(金)の参観日後にPTA総会が行われ、本校の「教育支援」を充実させる役割の特別支援教育コーディネーター(Co)とスクールカウンセラー(SC)がご挨拶をさせていただきました。

【Coより】

本校には2名(長田^{おさだ}、黒川)のCoがおります。それぞれA高とB部門に所属しておりますが、所属に関わらず全校の児童生徒や保護者の方々のお力になれたらと考えております。普段、担任の先生方としっかり連絡や相談をさせていただいておりますが、「こんな時はどうしたらいいの?」「ちょっと他の先生にも聞いてもらいたい」等、きっかけは些細なことでもよいので、気軽に声を掛けてください。一緒に考えながら、必要な箇所・人と繋ぐ役割を大切に、協力して児童生徒、保護者の皆さんが安心して毎日の生活を送ったり、将来に向けて必要な力を付けたりするお手伝いをさせていただきたいと思っております。

【SCより】(年9回(4・8・3月を除く毎月)、来校して相談する時間を設けています。)

はじめまして。この度、スクールカウンセラーとして倉敷まきび支援学校に参りました、西邑^{にしむらつばさ}翼と申します。今後、お子様の心のケアをはじめ、学校生活や成長についてのご相談の場を提供できればと思っております。学校でのお子様の様子や、ご家庭で気になることなどございましたら、お気軽にご相談ください。また、日々の育児のヒントや、お子様がより安心して学べるためのサポートについても情報提供して参りたいと考えております。お子様の成長を温かく見守りながら、より良い環境づくりをご一緒できれば幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

